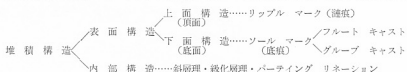


# 堆積構造

長 浜 春 夫 (地 質 部)

堆積過程で形成される堆積物の中にみられる構造をいう。堆積構造は下表のように分類される。



**フルート・キャスト** フルート・キャストは砂岩・泥岩互層の砂岩単層の下底面にできた流痕である。これは水流が砂を運搬したときに、下底の泥をえぐりとり、そのため凹みが生じ、その凹みを砂がうめた跡である。

**グループ・キャスト** 砂岩単層の下底面上にみられるもので、フルート・キャストとちがって、まっすぐにのびた非常に長い底痕の1種である。成因的には混濁流が流れるときに、それに含まれていた物体が水底の泥土をこすり削るか、あるいはひっかいたために生じた溝

または“すじ”の跡である。このキャストは直線的に続き、全長を通じて高さがほぼ一定で、溝が非常に浅いのが特徴である。

**斜層理** 一般に主層理(普通の堆積のしかたでできたほぼ水平な層理面)に対してある角度をなして堆積した層が集合して作る堆積構造をいう。

斜層理面が平面をなすか曲面をなすかによって、平面型(ほぼ平面をなすもの)・谷型(曲面をなして凹面を上に向けるもの)・壑型(曲面をなして凸面を上に向けるもの)の3つ



1.  
フルート・キャスト  
(Load casted flute casts)  
流向は左から右へ 長崎県上県  
郡上対馬町津和北東約1600mの海  
岸対州層群(漸新~中新世)

に分類されている。

**級化層理** 砂岩単層内で下部から上部に向かって粗粒から細粒へとしだいに粒度が低下する成層状態をいう。乱泥流の堆積物に特有である。

**パーティング リネーション** 平行ラミナの発達した砂岩の剥離面に見られる線構造である。この線構造は砂岩の構成粒子の定方位配列に起因し堆積時の水流の方向を示す。

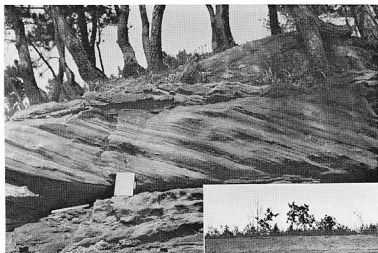
**漣痕** 砂層の表面を水または空気が流れ、その流れの速度がしだいに大きくなってある速度に達すると、はじめて砂粒は砂層表面上に沿って動き出し、ついに漣痕を形成する。漣痕の形は砂粒の比重・大きさ・形と砂粒を動かす水流や気流の性質に支配される。砂粒を動かす力のちがいに重点をおくと、漣痕は水流漣痕、波漣痕、風成漣痕、干渉漣痕の4つに分類される。次に平面的な形のちがいで漣痕を分類すると直線状・曲り・舌状・半月状などに分けられる。



2. フルーツ・キャスト 流向は左から右へ  
宮崎県日南市猪崎半島東海岸 滝ガ平山層（漸新～中新世）



3. グループ・キャスト 鉛筆は流れの方位を示す 山口県大津郡油谷町小田北方海岸川尻層（中新世）



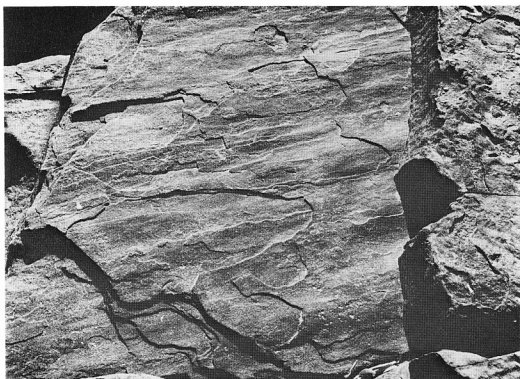
4. 斜層理(平面型)  
 流向は右から左へ 長崎県  
 壱岐島勝本 勝本層  
 (中新世)



5. 斜層理(谷型)  
 北海道釧路標茶阿歴内新道  
 鶴居層(更新世)



6. 級化層理 神奈川県三崎市城ヶ島 三浦層群中部層(中新世)



7. パーティング リネーション 宮崎県日南市大堂津猪崎燈台北海岸 滝ガ平山層 (漸新~中新世)



8. 舌状 澗痕 水流は右上から左下にむかう 長崎県上県郡上対馬町赤崎南方海岸対州層群 (漸新~中新世初期)